



ふおれすと鉾山ではマウンテンバイクの貸し出しも行っていきます



宿泊体験学習で炊事の指導をする上田さん



川遊びで水中観察をする青葉小学校の児童

なのですが、事前にいただいた体験プログラムに、既成の型にはない魅力を感じました」と担任の徳武正江先生は振り返ります。

『青葉の森にないもの探し』とタイトルがつけられた青葉小5年生の自然体験プログラムのねらいは「自分の住んでいる地域と比較しながら鉾山町特有の自然に気づく」。これもスタッフのオーダーメイドです。

その主なプログラムとは、

- ①川遊び  
箱メガネで川魚を観察したり、川底の鉾石のかげらを拾う。
- ②森の散策  
6グループに分かれて野鳥のさえずりを聞きながら植物観察。
- ③『ナイト・ソロ』  
暗闇の森を散策。途中の単独で歩くコースでは、声を出さず足音も立てずに暗闇の中に目を慣らし、自分を野生化させて、夜行性動物の気配を感じる。
- ④『サウンドマップ』  
朝食前に森を散歩。聞こえた野鳥の鳴き声などを紙に思い思いに線で書き込んで表現する。
- ⑤クラフト  
拾った落ち葉や枯れ枝などで写真たてを作り、鉾山町で体験したドラマを思い出として残す。独創性にあふれた体験プログラム



松原 條一さん

ムは、ここには書ききれないほどです。

「鉾山町の自然だけでなく歴史も学べて、子どもたちにとって貴重な体験でした。私も自身も仕事を忘れ、一緒に楽しみました。この素晴らしい体験は来年もぜひ実施したいですね」。徳武先生は、すっかりふおれすと鉾山のファンになったようです。

『モモンガくらぶ』発足  
市民がしっかり支えます

ふおれすと鉾山の運営の大きな特徴は、『市民・NPO（特定非営利活動法人）・行政のコラボレーション』。一方が他方の上や下という関係ではなく、三者が丸く輪を作って『協働作業』をしながら運営しているというものです。

自然体験プログラムの作成など運営のノウハウを札幌市のNPO『ねおす』に業務委託。専門的な知恵や人材を活用しています。

そして9月に正式に発足した『ふおれすと鉾山支援組織（通称

モモンガくらぶ）』には小学生から80歳近くの方まで各団体の有志を中心に市民51人が参加。

「行事をはじめ、施設内や周辺の整備、時には工作用の落ち葉拾いもお手伝いしていますよ」と話す会長の松原條一さんは、登別山岳会に所属。「クラブには、鳥や魚植物などそれぞれの分野に詳しい方がいます。経験に基づいた知識や情報の支援が利用者に喜ばれています。私も鉾山周辺の山は知り尽くしています。何でも聞いてください」と笑みを浮かべます。

冬こそ自然体験の季節  
行ってみませんか鉾山町

鉾山町を散策するだけでその素晴らしい自然の良さを感じることが出来るかも知れません。でもちよっとだけふおれすと鉾山に寄って、スタッフに相談してみてください。時間や人数、年齢、目的に応じた体験メニューを示してくれることでしょう。ただ、地理的な理由からか公共交通機関がないのが少し残念に思います。

いま、ふおれすと鉾山のスタッフは、冬の企画を一生懸命考えています。これから本格的な冬。降り積もった雪に、そとに残された野生動物の足跡が、私たちを待っているかも知れません。

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成15年度市民リポーターについての申し込み・問い合わせは情報推進課（広報広聴）（☎856586）まで。